

令和6年度第2回伊賀市子ども健全育成施策検討委員会 会議録

- 開催日時：2025（令和7）年2月21日（金）午後2時30分～4時30分
- 開催場所：ハイトピア伊賀5階 学習室2
- 出席委員：12名
岡野 裕行委員、柴田 正美委員、岡山 恵美子委員、中嶋 恭子委員、
増永 秀美委員、家城 円委員、竹島 みち子委員、松永 愛委員、
吉川 英毅委員、瀧本 志津代委員、松田 昌子委員、松尾 明彦委員
- 欠席委員：澤 和枝委員、松村 幸世委員、茶本 康一委員
- 市出席者：谷口教育長、川部教育委員会事務局長、小林上野図書館長、川口生涯学習課長、
高見生涯学習課主幹、西口主任
- 傍聴者：なし

開 会 （14：30）

【会議の公開についての説明】

この会議は、伊賀市子ども健全育成施策検討委員会条例に基づき開催し、伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご理解ご了解をお願いします。合わせて、会議録作成のための録音と会議録の公開についてご了承をお願いします。

【教育長あいさつ】

【資料の確認】

- 事項書
- 令和6年度伊賀市子ども健全育成施策検討委員会委員名簿
- 伊賀市子どもの読書活動に関するアンケート調査について（概要）〔資料1〕
- 令和6年度読書アンケート調査 集計表（児童生徒）〔資料2〕
- 令和6年度読書アンケート調査 集計表（保護者）〔資料3〕
- アンケート調査結果グラフ（児童生徒）〔資料4〕
- アンケート調査結果グラフ（保護者）〔資料5〕
- 子ども読書活動推進に係る取組（令和6年度各関係課まとめ）〔資料6〕
- 第三次伊賀市子ども読書活動推進計画の策定内容について〔資料7〕
 - （別添資料1）高校2年生アンケート用紙
 - （別添資料2）保護者アンケート用紙
 - （別添資料3）本よもうねっとプラン（仮称）
 - 第五次三重県子ども読書活動推進計画 - 《最終案》
 - （その他資料）本よもうねっとMIE
 - 本よもうねっとMIE×放課後児童クラブ 読書活動推進イベント
 - 「聞こう！動こう！つながろう！」

事務局

それでは、これより議事に移る。伊賀市子ども健全育成施策検討委員会条例第6条に「委員会

の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。」とあるので、ここからの進行は会長にお願いしたい。会長、よろしく願います。

【協議事項】

(1)「子どもの読書に関するアンケート」結果と分析について〔資料1～5〕

議長

それでは事項書に従い、順次進めさせていただきます。

まず、協議事項の1番「子どもの読書に関するアンケート」結果と分析について、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料1～5説明。

議長

以上で説明が終わったが、何かお聞きしたいことがあれば挙手をお願いしたい。

委員

児童生徒のアンケート結果の6ページの上に、「あなたはこの1年間に学校の図書館に行ったことがありますか」という設問のところで、中学生でぐっと%が落ちている。もう何年も前の自分の子どもたちのことをいうのもなんだが、中学校の図書館っていうのは何となく環境が悪いかと思う。

休み時間に行っても入りにくかったり、本がなんか雑だったり、少なかったり、子どもに聞かせてもらったことがあって、今そんな環境じゃないかも分からないが、行きにくいのかなと。高校生の方でぐっと割合が上がるのは、高校には司書さんいてくれるので司書さんの力が大きいのかなと。高校の時に図書館・図書室通信って子どもがよく持って帰ったり、それこそビブリオバトルであったり、みんなでおすすめのカードを書いて図書館・図書室の前に貼るという活動はかなり司書さんがされていたので、それもあって子どもたちも図書室に行く機会が増えている。

あとは受験のための調べ物とかそういう感じで増えているので、高校生は読まない子も多いが、読む子でこうやって行ったことがあるというのはそういう感じなのかなと思うので、やっぱり中学校の図書館・図書室の環境をもうちょっと考えていただけたらなと今も思う。

委員

言われたようなことはないと思う。うちの中学校では一番すみっこに図書館があって場所的なことがあるか分からないが、中へ入ったら、中学校なので委員会の子とかが綺麗に飾り、そんな工夫はされてのるかなと思うが、ただ中学校も今授業で図書室を使ってないというのが大きいところかなと思う。

小学校は割とその授業を図書室でやるっていうのがあるので、そこらをもうちょっと考えていかなくはないかと思った。

教育長

小学校よりも、中学校の図書館に行くとか図書館でというのが少ないというのが事実であると思う。もっと図書館の環境を良くしたらということだが、小学校だと図書館に行くように、ま

た本に触れるように学級文庫にいろんな本を置くというのはしてきて、子どもたちが手軽に本に触れ合えるようにしてきているが、中学校もいろいろ工夫しながらも、部活などもあって難しい面がある。

行政として、来年からは学校司書を置く。学校司書には図書館のある程度の飾り付け、レイアウト、そして子どもたちが来た時の指導も一緒にしてもらいたいと思っている。学校司書は全ての学校に1人ずついるわけでないので、巡回をしていただく。中学校も回っていただこうと思っている。そのことによって、図書館に行く回数も中学校として増えてもらえればというふうには思っている。明るい図書館にしていきたいということ。

議長

他に何かあるか。

委員

同じところの質問だが、小学生の利用が 96.3%。100%ではないのは却って気になるが、これは何か理由があるのか。

事務局

これは 100%だと思うが、今回 구글フォームでの回答だったので、チェックし間違えたことがあるかもしれない。小学生は、まず間違いなく全員図書館に行っているが、こんな結果になっている。

議長

学校の図書館へ行かなかった理由は資料2の4ページにあげられている。

事務局

学校の図書館へ行かなかった理由として、ここでは確かに本を読むのが嫌いやからとかになっている。しかし、図書館には行っている。行っているのに、何かしらこういうふうに書いてしまっている。

議長

授業で利用の時とそうじゃないとかに分けて考えているかも分からない。授業は授業としてそんな印象がある。他に何か、ご意見は。

委員

学校司書は、今は何人いるのか。

事務局

小中については今のところは0。

教育長

司書教諭は12学級以上のところは必ず配置している。これは法令で決まっている。ただその司書教諭も必ずその図書館の担当をしているかっていうとそうでもなく、学級の担任をしたりいろいろなことをしていたりするので、なかなか図書館に行けないという状況もある。

委員

先生やったら、先生としての仕事もある。

教育長

だから市として学校司書を入れていくということしかないかなと私たちは思っているので、来年は学校司書を入れて、全てじゃないのである程度的人数の中で巡回していただくという形を取っていきたいと思っている。図書館の経営・図書館の飾り付け・図書館で子どもたちに読み聞かせをしていただくことも可能だと思っている。本の選ぶ指導も多分していただけるというふうに思っている。

議長

来年度はっていうことだが、具体的にどのぐらい学校司書を入れる予定か。

教育長

今のところ3名の予定している。3名で市内すべてを回っていただくということで、スタートしていききたいと思う。

議長

となると1校当たり？

教育長

小学校は18校・中学校が10校なので、28校中で3人ということ。だから一人当たり9校になる。

議長

1週間のうちに行けない学校が出てくる。

教育長

そこからスタートしていきながら増やしていくということかなというふうに思っている。

事務局

今まで全然認めていただけなかったもので、今まだ予算要求している段階である。この3月の議会で認めていただけたらっていうことになるが、図書室の飾り付けや読み聞かせなんかは、地域のボランティアの方にすごくご協力いただいて、片付け、本の整理など今まではお願いもしていたので、そういったボランティアさんのお力も借りながら進めたいと思っている。

委員

司書さんを学校に置かれると、今小学校の図書の担当の先生っているが、そういう方はなくなるのか。

教育長

なくならない。担当はいる。

委員

担当の方が積極的に電話くれたりとかしてくれているので。

教育長

司書が入るからといって、読み聞かせの方とか地域のボランティアの方ともう連絡しないじゃなくて、それはそれで今通りいろいろしていただくので、さらにそこへ司書の方を入れていく。小学校だったら、ほとんどの全ての学校で読み聞かせボランティアの方が入っていただいているし、学校によっては図書館の飾り付けやいろんなものもボランティアの方がやっていたいっている。ボランティアの方にお力を借りて、子どもたちには好評な状況である。

議長

現状、ボランティアで回しているってとこか。学校によって温度差も、また時間のかけ方の差もできるだろうし、市として今回、学校司書を3人入れていただける予定で詰めているということだが、そこをきちんと整備していくってことも1つ課題かなって印象が無きにしも有らなくなってしまう。司書教諭が必要だというのは当然で、学校司書とボランティアとの組み合わせで回すことを目指していく形か。

教育長

そう考えている。

議長

その他、何かあるか。

委員

個人的なことになると思うが、私も中学校1年生と小学校3年生の保護者だが、私自身は中学までは本が実は苦手やって、高校の時にある本に出会ってからすごく本が大好きになり、高校も大学も図書館でマックスの本の冊数を借りるぐらいずっと本ばかり読んで結婚してからも本を読んでいた。

この「保護者の人が本を読んでいますか」という項目だが、子どもが生まれてから一切自分の時間っていうのがなくて、ゆっくり本を読むことができにくくなったって言ったら、なんか悲観的なのだが、できなくて嫌やとは思わないが全く読めなくなってしまった。

どちらかって言うと、本屋さん行ったら子どもはこの本を読んでいるのと違うかとか、子どもはこれを読んであげたら喜ぶのと違うかとか、結局子どもの本ばかり選んで、自分が読むのが自然にできなくなった感じなので、もしかしたら私だけかもしれないが、今保護者として読まないって言った人の中にも、そういう方もいらっしゃるのと違うかなと思った。

この質問を見た時から、私は読みたくても読めないから、こうやったら読まないという回答になってしまうと思う部分が気になった。

事務局

そこら辺の気持ちだが、本を読むのは大事だが読んでないっていうところが、多分その葛藤が出ていると思う。

委員

子どもには読んでいます。子どもと一緒に。楽しんで読んでいたりとかしているが、自分が読むかって言うたら自分の本も借りることもできないし、なんやったらテレビもこの10何年教育テレビ以外見てないみたいなリアルタイムな感じなので、「お母さんと一緒」くらいしか見てないみたいな感じだったので、なかなか自分で本を読むっていう時間をみんなはどうやって取っているのかなっていうことも思った。

事務局

おっしゃっていただくのはうちの家庭を見ても分かるところがあって、女性が主になって子育てをしているところがあって、私の息子の連れ合いを見ていてもなかなか本を読む時間を見出すのは難しいって思った。それこそ自由な時間が持てるようになった時に読んでいただくことに戻っていただくのだろうとも思う。

事務局

この29年度に比べてデジタルやスマホが普及して、本からそのスマホの方に時間を取られてしまっているというのも大きな原因かなと思う。

委員

スマホも私持ったのが最近なので。

委員

スマホで読んでいるのはカウントされないのか。本を読んでいるには当たらないのか。

事務局

今回の調査は電子書籍も含めている。

委員

お聞きしたいのが、保護者の回収率のこと。自分の子どもをみても、当日まで出してくれないとかがある。学校の子どもたちに保護者向けの説明の用紙を渡して、そのQRコードから読むことによって、そもそも親にその用紙が届いてないことも多々あるのかなと思ったりもする。この回収率と平成29年度を比べてどれぐらいの差がでているのか。

事務局

平成29年度までは紙ベースでの調査だったので、小学校・中学校・高校とも回収率はもっと高かったと思う。今回は、ここから入って回答してくださいよってお渡ししているだけなので、それに対して答えてくれるか答えてくれないかも保護者の判断になってしまう。今きちっとした資料を持ってないが、紙ベースやったら担任の先生に回収してもらおうのもっとたくさん回答してくれていたと思う。

委員

この回収率の低さも無関心なのか、単に届いてないだけなのか、ちょっと気になったところ。アンケートの回収もなかなか難しいのは分かるが、ちょっと気になった。

議長

その他、何かあるか。

教育長

今、学校司書は入っていないが、県の読書推進の割合も低い。家庭学習の割合も低い。伊賀市も同じような状況だが、県としたら全体的に読書活動を進めていくのに、特に家で本を読むのを広めたいとの思いがある。伊賀市としては市内3校の小学校で実証実験というか、司書的な教諭を入れて進めていく。その1校の例だが、校長先生も昨年度から指定を受けてご協力いただき、ボランティアの方も入って、図書館のまず整理をする・来やすい環境を作る・読み聞かせの方が必ず来てくれる。読み聞かせの方が図書館の整理も含めてやっていただいているが、そういう中で今年についてはいろんな費用を集めて、子どもたちが1冊自分で本を買う。そして自分の本を1冊持ち、読みたい本を人に紹介したりしながら、活動として市内の本屋さんから本の話をしていただくことなども行っている。その結果、子どもたちは学校で本を読むことが増えた。アンケートとっても増えている。

ところが家で本を読んでいるのかと言うと、去年今年と一切上がってない。これだけ学校で読書していても、なかなか家庭に影響を及ぼさない。去年、その学校は読書感想文の三重県賞を取るぐらいの学校やったので、学校ではいろんな指導していたが、ご家庭の方に本どうですかって言っても、保護者はあんまり読んでないということで、家庭でいかに本を家で読むことにつなげていくか、この10分以上読むということも含めていかにここに手を入れるかで非常に苦慮している。いろんなことしてもなかなか浸透していかないというのが現状なのかなと私たちは思っている。ここをいかに家庭に呼びかけて図書館に行ってもらったりとか、それから絵本も一緒に読んでいただくとか、そういうことを先ほどお忙しいのでということもおっしゃっていただいたが、何とかそこに手を入れられたらと思っている。

他の2つの学校もいろんな手を入れていただいているが、なかなか家庭での読書量が上がりにくいというような現状である。

議長

その他、いかがか。

委員

今の話から、この読書の保護者アンケートの結果だが、どの年齢の保護者においても子どもと一緒に読書したり読み聞かせをしたりすることが大切。しかし、今皆さんがなぜその本読めないのかっていう話もあったが、忙しいとかそういうのをアンケートに出すってことができないか。保護者がなぜ本を読まなくなったとか、そういうアンケートをちょっと入れていただくと原因がわかってくるのかなと思う。

事務局

また参考にさせていただく。

教育長

このアンケート結果を、学校としても今後に生かしていくようにして、保護者の方へもよびかけていくような資料にしていきたいと思う。

議長

保護者アンケートの結果を見てみると、子どもへの読み聞かせや子どもに対してっていう質問が多いので、その保護者さんご本人がどうなのかっていうところの質問が見られない。それがあるともう少し掘り下げられ、保護者に対するアプローチができると思う。抱き合わせになっている。一人の人間として、親としてっていう感じに捉えられる感じがする。

議長

その他、何かご質問・ご意見等はないか。

資料5の保護者向けのアンケートの5ページ目、「読み聞かせを始めるきっかけは」の問いに対し、世代別で4歳児の保護者が「自分が本を読み聞かせてもらったから」という回答の割合が高く、世代感に違いが出ている。高校生とか中学生といったある程度年齢のいった保護者よりも、小さい子どもの世代の若い保護者の方が高いという面白い傾向かと思うので、是非この辺りをサポートできるような体制ができるといいと思う。世代交代するにしたがってちょっと底上げはできるかなと印象を受けたので、是非この傾向が続けばいいなって感じた。

では、以上でこの件については終わる。

(2) 子ども読書活動推進に係る各課の取組について〔資料6〕

議長

続いて、協議事項の2番、「子ども読書活動推進の各課の取組」について事務局の方から説明をお願いします。

事務局

資料6説明。

議長

それでは委員の皆様の方から、何かご質問・ご意見等をお願いしたい。

委員

学校での取組として朝読はかなり定着して、子どもたちもその時間になったらしてくれていると思う。ボランティアで行かせていただくと、ボランティアが入っていないクラスでもその時間にちゃんと読書をしているが、その朝読の時間に多分先生方は会議もあるし準備もあってとても忙しい。その朝読10分の時間が先生たちの準備する貴重な時間だと思う。しかし、そこをちょっと無理していただいてでも子どもと一緒に先生も教室に入って本を読む。先生も自分の本を読むし、子どもたちも自分の持ってきた本を読んで、そうすると子どもたちは「先生何読んでるんやろ」と言って、またそれで興味が湧いてくる。先生は「こんな本読んでいるのだよ。これは面白いよ。みんなも読んでみる？」って感じでつながって行って、子どもたちが家庭でも「先生はね、こんな本読んでいるんやって」と言ってつながっていくかもしれない。保護者の人も「あっそうか、先生あんな方な本読んでいるの、私も読んでみようかな」という形で、それがどんどんつながっていくかもしれない。それは理想ですが、先生も大変だから週に1回何曜日は子どもと一緒に教室に入って本読もうかという、そういう時間もあってもいいじゃないか。

もしかしたら、もうそれを実践してくださっている学校とか先生もいてくださるかもしれないが、学校へ読み聞かせに入らしていただいても先生がいてくれなくて、じゃあ始めようかと言ってボランティアと子どもたちで始める場合もあったりして、読み聞かせの時間にもうちょっ

と先生も入ってくださり、ボランティアが読んだ本を先生も一緒に聞いてもらい、子どもとその時間を共有するのが一番の目的だと私は思って朝読に行かせてもらっている。

残念ながら、机をちょっと横に向けて丸付けをしていたり。それは本当に忙しいのは重々承知なのだが、ちょっと悲しい感じになってしまう。そこを先生も意識していただけるとありがたいと思う。読書は低学年のちっちゃい子は素直に受け入れるけど、大きくなったら個性も出てくれば考えもあるから読書も変わるけど、低学年でしっかりその読書習慣を癖付けるためのスタンプカードだったり、どこまで読んだらどこまで行ったとか、距離とか日本1周するのにスタンプ押して日本1周できたとかっていう遊び感覚でも、読書スタンプカードなり読書手帳だったり読書通帳だったり、家読でも予算はかかるが家読ノートという形で取り組むのもいい。お母さんも読む時間はないかもしれないが、子どもが読んだ本を同じように読んで、またその作家によっては児童書も書いていたり普通に小説も書いていたりするので、いろんな読書の方法で広がっていくと思う。

私自身も実際子育てがある程度一段落してからまた読書に戻った方で、子育て中は読み聞かせるだけで精一杯だったが、子どもが小学校から児童書を借りてきたら、「お母さんこれ面白いよ」って一緒に読みなどいろんな方法で本は読めると思うので、なんらかの形で読むことを低学年から癖付けていくことが大事だと思う。

大山田図書室には読書手帳というのを作ってある。自分で読んだ本をメモする形にしてあり、みなにプレゼントさせてもらっている。宣伝もかねて持ってきたが、このサイズの紙で折りたためば手作りの読書手帳ができる。お金はそんなにかからない。読書手帳や読書通帳っていう形で、自分は何冊読んだっていうのがメモできる。こういうのがあれば、張り合いになり達成感もあるかなと思って配布させてもらっている。やっぱりちょっとしたきっかけで本を読んでいく、何でもないことからでも始められるのでは。小学校や図書館、図書室でも読めたねというシールやスタンプがあればまた面白いじゃないかなと思う。

議長

その他、何かご意見はないか。

委員

学教教育課の2ページ、読書図書館活用アドバイザーだが、モデル校の3校でいろいろしてこられたと思うが、成果の発表はあるのか。

教育長

去年は上野東小と府中小の2つだった。これが必要やということで県に1校増やしていただいて3校になった。読書活動を推進していこうとなるとアドバイザーもいるし、アドバイザーの方に例えば業間の休み時間に来ていただいて、子どもたちに本の紹介をしたり読み聞かせをしていただいたりと、非常に好評だった。そのことをきっかけに、学校で本を読むような活動も増え非常に活発になってきている。成果としてはこういうふうに指定するによって、より成果が上がっていくと考える。

委員

環境なり意欲というか興味というか、そういう事をするいろんな環境のことも十分されていると思うが、それが家でも本を読むことが好きで家で読書つながっているかどうか、そこがすごく興味があるところ。

教育長

僕としては非常に効果があると思う。

委員

是非各他の成果と課題も含めて広めていくために、学校以外の私たちもすごく聞きたいので、是非成果の発表をお願いできたらと思う。

教育長

子どももその指定校だけじゃなくて、それ以外の学校でも読書を増やすというのは大事なのでさっき言ったように、本に触れる機会を多くしたいということもいくつかやっている。委員さんが言ったように、読書貯金として各自が持っているタブレットへ打ち込んで、どれだけ貯金できたか分かるようになっている。アナログではなく、タブレットも使いながら。家庭では、どうしてもタブレットを見てしまう、ゲームをしてしまうという時間を、いかに学習や読書に振り替えるということなので、学校によっては、今週1週間はデジタル系のものは見ないようにして、家庭でももう少し静かな時間を作ってもらおうといった協力をいただいていることもある。1小1中の学校で、小学校がする時期が1週間やったら中学校も同じ時期に同じことを連携してやっていただいて、いろんな形で家庭にも呼びかけることがスタートしているが、効果を表すにはもうちょっと時間がかかるかなという状況になっている。

議長

県の事業はいつまでか。

教育長

来年も私たちはほしいと言っている。県としても家庭の読書量は増えていってないので、来年もきっとこの事業はあるだろうと思っている。この事業については、私たちも手を挙げていきたいと思っている。可能性があるなら、事業を受ける学校数も増やしていきたいと思っている。

議長

これあくまで県の事業だから、予算的には県がもつのか。

教育長

県の予算から私たちは使わしていただいている。

議長

その予算の中でこの3校を選んでいるということか。

教育長

そう。

議長

県がどこまでやってくれるか次第だということか。

教育長

ただ伊賀市が3ついただいている内々を言うと、この報告書が非常に大変。なので他の市町は手を挙げない。伊賀市は3つもらっているのので得をしており、担当の者が大変な中でも報告等をしている。

議長

いずれこの報告は県の方から出てくる形か。

教育長

今、県の方に報告を上げているので、県としてまとめている。

議長

成果がどう変わってくるか、気になるところ。先ほどのアンケートは全体の平均だが、事業実施後の検証なんかもできればいいなと考えている。

その他、何かないか。

委員

この読書アドバイザーさんはもうプロの方か。

教育長

プロというのはどこまでか、ちょっと私どもも分かりかねる。読み聞かせの方でもいろんな方がいらっしゃるが、非常に熱心な方が入っていただいたりしている。プロってというのは難しいので、慣れている方にアドバイザーをしていただいている。

委員

読書関係の資格を持っている方かなと思ったりして。

教育長

資格を持っているかどうかははっきり分からない。持ってないかもしれない。

委員

私らは持ってないが、自分の空いた時間に学校に行かしてもらい読んだりしているので、子どもたちはどうかなって思っ

教育長

ボランティアの方って、図書館に行っていたりして学習もしていただいたりして、私たちはそういう方やったら学校としてウェルカムに来ていただくということになるかと思う。

委員

もう一つを聞きたい。保育園とか幼稚園とかで小さい時に子どもに読み聞かせをしてもらった子が将来的に繋がっているとあるが、やっぱりお家でも読み聞かせとかしてもらえればいいと思う。保育園で金曜日に本を1冊借りて読むっていうのは大体の園でやっていると思うので、それ以外にやっぱり図書館で本を借りて読むことも大事で、これらのことが家で読む習慣に繋がっていると統計的に出ていると思う。

委員

保育園も幼稚園も、大好きな先生と友だちと一緒に図書室に行って、本を選んでお家に持って帰っている。子どもが自分で選んだ本ということで、お家の人にこれ私が好きな本だから読んでもと持って帰る。それがきっかけでお家の人も本が好きになり、家で子育てが本当にお忙しい中でも読んでくださっている。金曜日に借りて帰った本を月曜日に返すことになっているが、下の子も読みたいし、「月曜日過ぎちゃってもいいですか」みたいなことをおっしゃる方もいるぐらい、それがきっかけになって家で読んでくださるというところに繋がっているのはすごく大きいと思う。

その大好きな人と一緒に読む、または大好きなお家の人に読んでもらう、本が一番大事というよりはその人の環境もすごく大きいのかなと思う。自分の大好きな人に読んでもらう、ボランティアで何回も来てもらった方に読んでもらうという環境もすごく大切なのかなと思う。

委員

ずっと繋がれば、小学校・中学校はやっぱりに心に残る。お父さんお母さんに読んでもらったとか、私も30歳を過ぎている子が子どものときに何回も読んでいた本を残してあって、それをあの孫ちゃんに読んであげやっという感じで古い本を渡したことがある。今、どうしているのかと思う。以上です。

議長

他に何かご意見はないか。

委員

4ページの学校教育課のところ、「小中学校ともに各校で図書館年間計画を作成し」と書いてあるが、具体的にはどういう感じのものなのか。例えば目標みたいものがあってどういうことをする計画みたいことが書いてあるのか、図書館の計画だけが単独で書かれたものなのか、学校のいろんな教育活動とリンクして書いているのか教えていただきたい。

事務局

学校によって違いがあるか分からないが、自分の経験を言わせてもらうと図書館だけの計画を作った。1年生から6年生までの計画を一覧にし、毎週の読み聞かせのことや図書館を活用する計画等をまとめてある。なかには子どもが読んだ本を友だちに紹介するようなイベントを入れる月があるなど、図書館だけの計画を作っていた。

委員

実施計画書みたいなものか。

事務局

はい、そう。

議長

その他、何かあるか。

委員

この読書図書館活用アドバイザーのモデル校3校は全部小学校になっているが、中学校はない

のか。

教育長

今のところはない。小学校から読ましていきたいと思っているので、小学校を指定してということになっている。中学校に行ったら今度は英語とかの指定校になったりして、小学校から読み聞かせ等を行っていかうということで、重点的に今3校に入れている。

委員

こども未来課の4ページの「放課後児童クラブ利用児童に読書の機会を毎日提供している」とはどういう感じなのか。その児童クラブで誰かが読み聞かせをしているのか。

事務局

おそらくではあるが、本を置いてあって読む時間を指定している。放課後こども教室ではなくて放課後児童クラブなので、子どもの見守りみたいな形の中で本を読める時間を設けている。

委員

勝手に読みなさいって。

事務局

おそらくそうではないかと。

委員

多分「読んで」って置いてあるのは知っている。学童も少しやったことがあるが、読書する時間ですよって強制はできない。

事務局

ただ今後計画を作っていく中で、関係課を集めて会議をしていくこともあるので、子どもの読書を増やしていくために一声でかけていただくなど、そういうことは言っていけると考えている。

委員

柘植の方の学童さんに読み聞かせを依頼されて行ったりしている。その時は静かに聞いてくれているが、学童に仕事で入るとこっちが怖いぐらい。

議長

その他、何かあるか。

委員

家で本を読まない、不読率が高いとかってお話もあったりしていたが、何を読んでいいのか分からない子どもさんとか保護者の方もいると思う。さっきお話にあったような朝読の時間に先生が座っていらして、そこで先生が読んでらっしゃる本をこれいいねとか、友だちが読んでいる本いいねとか、読み手のボランティアさんが紹介してくださる本もだし、やっぱり自分で選

んだ本を読むと思うので、本とその子どもさんを繋げる人が欲しいかなと思う。それがアドバイザーさんであったり、司書さんを置いてくださるとのお話もあったりしたが、自分でも本の情報を取りに行ける方法があればいい。図書館に今こんな本が入りましたとかいうのもお便りで紹介していただいているとは思いますが、例えばトイレで本のタイトルを紹介するなど、どこでもその本ちょっと読みたいな、ちょっとこの本読んでみようかなっていうようなこともいいと思う。本屋さんに行くと吹き出しがあったりするが、図書室でもそういうようなことをしてあると思うが、全部読まなくても図書室に行かなくても、どこかに普通に本があったり本の紹介がしてあったりするなど、どこでも本の情報が取れる、自分で取りにいける工夫をしていただいてもいいのかな。自分で本を選べるようになるのを繋げてくださる方がいたら一番いいが、そうできないとしても自分で情報をとりにいける整備はしていただきたいと思う。多分、読みたいけど何読んでいいかわからない、嫌いじゃなくて選び方が分からないといった子どもさんも多いのかなと思いつながら話を聞かせていただいていた。

委員

私は以前に、小学校に読み聞かせに行った時に絵本でしりとりのお好きな王様っていうのがあって、最初に一冊の本を見つけて、しりとりのお好きな王様で終わったら「ま」のつく絵本を探すとかね。それでずっとしりとりをしていったら、しりとりをする絵本を選ぶ。そういう風な提案もした。それと、あとはポップもいいかなと思う。

議長

今の意見もそうだが、読書って本を手を持って読むだけの時間じゃない。その本がどっかからやってきたものは、やって来るまでも含めて読書って考える。最近の読書研究はそういうところも含めて、狭い意味の読書じゃなくて広い意味で本がどこから生まれてどうやって自分の手元にやってきたのかというその流通も含めて考えたりする。繋ぐということをおっしゃっていたが、読書研究では仲介者と言ったりし、本と読者を繋ぐ役割を果たす人をどう社会の中に生み出していくかということ。それは朝読の時間の先生ということもあるし、家庭であれば親がその役割をするだろう。友人が仲介者ということもある。本を読んだ人は次の人の誰かの仲介者になれるってことなので、本についてどんどん喋っていただけるような環境があればいい。誰かに本のことを伝えていくという役割も含めて読書って考えていけると、もっと読書活動に広がりができる気はする。

他に意見がなければ次にいく。

(3)「計画の指標」の追加について〔資料7〕

議長

協議事項3番、「計画の指標」の追加について事務局に説明をお願いします。

事務局

資料7説明。

議長

それでは、ただ今の説明に対して、何かご質問ご意見はないか。

委員

どうやってこの指標の結果を取るのか。例えば「5月、1日あたり10分読書しましたか」み

たい設問か。

事務局

アンケート調査でその変化を見ていきたいと思っている。今回のアンケートと同じような問い方で実施して、その変化を見ていきたい。ただ指標にはしたものの具体策はというところが課題で、その辺りをさっきからもいろんなご意見いただいでいて、大いに参考にさせていただけるなどと思っているが、さらに家庭の読書時間を増やすのにこんな方法がいいじゃないかなってことをお聞かせもいただけたらとも思っている。割合の変化はそのアンケートで見ることによるのか。

委員

月を区切って、5月1ヶ月の間にみたいな感じか。設問が難しい指標やと思う。

事務局

問い方としては別添資料1をご覧ください。高校2年生のアンケートで、小中高とも表現の仕方は違うが、内容としては全く同じアンケートになっている。アンケートの2ページの6番「あなたは家で1日何分くらい本を読みますか」と直接訊く。直接訊き、10分までとか、10分から30分・30分から60分・60分以上という、この②・③・④を回答した児童・生徒の割合で変化を見ていきたいと思っている。

委員

今更だが、このアンケートでは読書に漫画を含んでいない。漫画は読書じゃないのが気になるところで、価値観が変わってきているのに今も漫画は読書じゃないっていう中で、1日何分、活字だけのものを読んだら読書っていうのはすごく難しいと思ったりする。ずっと同じ規定でアンケート取っていかないと経年変化が見えないが、その辺も含めていかんか。特に、高校生なんかは漫画を含めたら、もうちょっと割合が上がると思う。なかなか時間もないので、漫画でバアッと読んでいる。そういう傾向は確かにあるので、違和感がすごくある。ここでは致し方ないが、漫画については一考に値するかなと思う。

事務局

あとで紹介させていただく別添資料の三重県の第5次計画の最終案を読んできたが、実は読書で何を読むかというのは柔軟になってきている。漫画も出てきている。漫画とか図鑑とかそういったことも書かれているので、そこは検討していきたい。文科省が実施している全国学力学習状況調査の読書の部分では、まだ漫画は除外していたが図鑑は読書には含めていた。今回の伊賀市のアンケートでは漫画も図鑑も一応省いてはいるが、読書に対する考え方っていうのか捉え方っていうのか、そこは検討していきたいと思う。

委員

確か図書館に漫画があったと思うが。

事務局

学習漫画的な本は置いている。

委員

原爆の話もあったと思うが、ちょうど僕が中学校ぐらいの時、40何年以上前だが、それを読みに行った記憶がある。

委員

歴史シリーズの漫画で豊臣秀吉等もあるが、それも入らないのか。

事務局

学習漫画について記載はしていないが、学校に配付したアンケート調査の留意事項には、「学習漫画は読書に含めてください」と記載してある。ただジャンプ等の漫画は別と考えている。

委員

アンケートの2行目、百科辞典の「じ」は「事」。

事務局

確かに間違っているなので、修正しておく。

議長

その他に何かないか。

皆さんから意見や質問はないようなので、逆に皆さんにお聞きしたい。家庭における読書時間を増やす工夫・アイデア等についてご意見をいただきたい。

委員

年齢層は。

事務局

子どもたちの読書時間を増やす工夫をお聞きしたい。

委員

小学生・中学生。

議長

計画にあるアンケートの範囲。

委員

年齢によって違う。

議長

全く新しいものでなくても単発でもいいと思うるので、もしあれば。

委員

子どもが小さい時に絵本の読み聞かせの先生がいて、「小学校4年生までは抱っこしてあげて、こうやって撫でたらいいよ」って教えてもらった。スキンシップが大事で、男の子やと恥ずか

しいと思う子もいるけど、そうしていくとお母さんに読んでもらったって感じになる。私は寝る前によく読んだ。小学校4年生ぐらいまでやった。

議長

他に、こんなアイデアどうかってないか。

委員

アイデアかどうか分からないが、うちはまだ小3の子が読み聞かせて欲しいっていうのでやっている。やっていたら、中学生の子も一緒に聞いている状態で、前もちょっと言ったかもしれないが、一緒の本ばかり読んでいたらだんだん覚えてくるから、登場人物に分けて上の子がここ言うとか言って、そんな感じで読み聞かせをしている。

また、国語の教科書で、その单元によってすごく興味を持つ单元っていうのがある。上の子やったら説明文の方が好きで、下の子やったら物語文が好きだが、教科書に載っている作品の作者が出している他の本があったら、図書館に見に行っ一緒に読むことぐらい。そして、家に帰っても読むようになってる。下の子は本が大好きで、常に宿題せなあかんと言って本を読んでいる子。そんな感じで家は進めている。

委員

親を説得しなくては、図書館に行くのに車がなかったら行けない。親の気持ちのゆとり、心のゆとりも大事。自分も本を読むが、3行か4行ぐらい読んで面白ければちょっと置いて、期限が来たら返すこともある。でも、面白い本やったら10分と言わず、もっと集中して読む。お父さんやお母さん、家族で図書館へ行くという道筋をつけてあげると、きっと本の好きな子どもがいっぱいできると思う。いがまちにも立派な図書館がある。是非とも。

議長

誰か読んでいる姿に影響受けることはある。

委員

一方通行じゃなくて語りかけるみたいな感じ。この次はどうなると思う？とか、お母さんからの言葉がけもいい。おじいちゃん、おばあちゃん、家族でもいいが、読書を通じてコミュニケーションができる。でも、そういうふれあいがなくなり心の余裕がなくなると心配。

議長

他にあれば。

委員

先週、志摩市の市民団体が、どうしたら子どもが本を読むようになるか大作戦みたいなワークショップがあつて行ってきた。そこで話が出ていたのが、お風呂とかトイレとか家のいろんなところに本を置く。生活のどこにでも本があるような生活をするっていうのを広めていく。たまに1冊本を入れるキャンペーンをすとか、とにかく本がいろんなところに暇やったら手に取れるところに本があるみたいな感じを作っていくのは、結構大事なんじゃないかっていう話が出ていた。

玄関に本とか、身近っていうのは一つのキーワードではないかと学んできたので共有したいと

思う。

委員

家庭文庫みたいなのを作ったらどうか。

議長

親の持っている本もいっしょに並べてもいい。

皆さんからさまざまなご意見をいただいた。これで協議事項を終了したいと思う。次回委員会は5月中旬を予定している。第1回・第2回の協議を基に中間案を作成し、その内容を検討いただきたいと思うのでよろしく。

あと、事項書3番その他で、事務局から何かないか。

3 その他

事務局

(その他資料) について説明

事務局

「図書館ワークショップ」について説明

教育長

アンケートを見せていただいた結果、それから皆さんからご意見をいただいたことを受けて、学校とも共有させていただきたい。学校でも、すぐに子どもたちの手が届くというのが一番読む確率が高い。図書館にわざわざ行かなくても、学校に行って読めばいい。それから廊下に本があれば廊下で読めばいいというようなことで、学校でそういう状況をもっとつくっていきたい。ただ、家庭にもそういった状況をつくっていくことを願うが、そこに一つ難しさがあって、なかなか本が揃わないお家もあることが課題である。

それからもう1点。読み聞かせについて、こちらから与えて子どもたちにしてやるというところから、学年が上がる则自分で読むというところへ変わってくる。ところが、ある中学校が読み聞かせをしていたことがあって、だいぶ指摘も受けた。子どもたちが高学年になれば自分で本を選んで自分で読むように力をつけていくことが大事である。

小学校だったら、学校の図書館で1冊本を借りて帰って、「お母さん、この本読んで」とか「お父さん、この本ちょっと読んで」とかいうように頼んで、親子で読む中で読書活動を広げていく必要があるかなと私自身は思っている。「この本読んでね運動」みたいな形にしていくことができると思う。

中学校に行くと、友達から「この本いいよ」とか、「この本面白かったよ」と言われるとちょっと読んでみようかなと思う。「これ読んだら面白かったよ」というような口コミが大事で、それを「この本面白かったで運動」みたいな運動へ繋げていけたら、読書がもう少し広がっていくかなと思う。

これらのことがいいかどうかというのは、また学校とも相談しながら進めていきたいと思うし、この読書計画の中にも入っていけばいいのかなと思った。その辺をもう少し深めていくようにしながら、次回にご提案をさせていただきたい。

長い時間ご協議いただき、本当に参考になった。ありがとうございました。

事務局

会長様、ありがとうございました。

本日も協議いただいたことを基にしながら、また子ども読書活動推進計画の策定に役立てていきたいと思う。なんでこの計画が必要か、そこには読書を通じて子どもに社会を生き抜く力をつけていくことが必要だと思っているので、また今後ともご協力をよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。